

演出から一言、ずっと同じ話しかしてないのでメモ、3

具体的に、の話。

今、自分は何をやるべきか。そんなことは分からないし、自分で考えろって話だが、一言何か言おうと思うのなら、具体的に作る、ということ。

具体的に作る。

眉間に皺寄せて、うーんうーん唸っていることを真面目に取り組んでいるとは呼ばない。具体的に、キチンと作業としての行動をしなくては、一步も前には進まない。それが、本当の真面目な姿勢というものだ。うーんでは、成長のセの字にもならない。うーんでは、変化のへの字にもならない。それでは、ただ停滞しているだけ。

でも、思考する時間も大切ではないか、と意見する人もいるかも知れない。私は、うーんうーん唸っていることを思考とは呼ばない。

私は劇作家でもあるので、よく思うのだが、頭の中だけでアイデアを「もてあそんで」いる時間は、思考に到達していないな、と思う。後から、反省する時がある。物書きにとって思考するとは具体的に書いている行為のことだ。具体的に書いていると、ああ頭の中だけで考えている間は頭を使っていないに等しいな、と思う。その差は、比較にはならないくらい。だから、上記のように考えるのです。すべては同じだろう。

思考とは、具体的な行動のことだ。うーんうーん唸って、それで何かやった気になっているなら、それは愚かである。

ちなみに、愚か、という言葉は、おろそか、と同義だと言うことも付け加えておく。さ、行動しよう。前に進もう。

長堀博士、記